

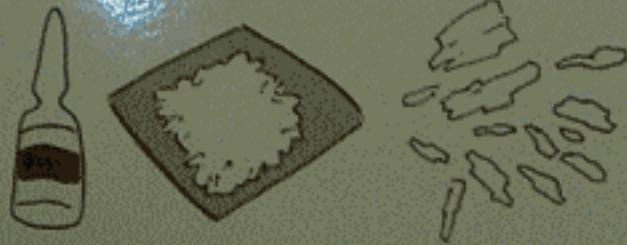
乱用される薬物の種類

乱用される薬物は“こころ”すなわち精神に影響を与える作用をもっており、中枢神経系を興奮させたりして、使用量によっては、急性中毒症状のために直接死につながる危険もありますが、特に問題となるのは、これらの薬物のうち連用することにより依存性を有するものです。

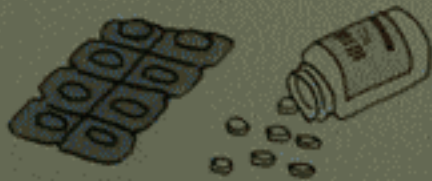
●シンナー



●覚せい剤



●睡眠薬

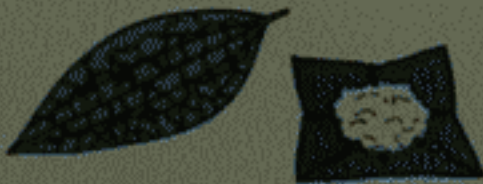


●麻薬

(あへん・モルヒネ・ヘロインなど)

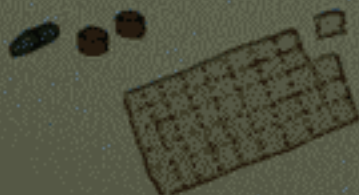


●コカイン



●幻覚剤

(LSD・PCPなど)



●大麻(マリファナ)



覚せい剤、シンナーの人体への影響

シンナー常用が長期になるとからだの内部にもさまざまな障害が起こってきます。特に成長期の青少年には、背が伸びない、筋肉がつかない、体重が激減するなど、発育をさまたげる大きな原因にもなります。

覚せい剤
シンナー(接着剤) } 等乱用による人体への影響

○覚せい剤

●シンナー(接着剤)など

精神障害 (幻覚(妄想型)、
幻聴、幻視、幻臭、
フラッシュ・バック)

瞳孔散大

食欲減退(衰弱)

血圧上昇

静脈炎

脱水症状



脳

脳髄がマヒし死んでしまうことがあります。

眼

視神経を冒したり、涙液出血をおこし、失明することがあります。

気管支・肺

粘膜炎が冒され痰やたんが多く出ます。

食道・胃

胃粘膜炎が冒され出血します。

肝臓・じん臓

細胞の一部が死んでしまいます。

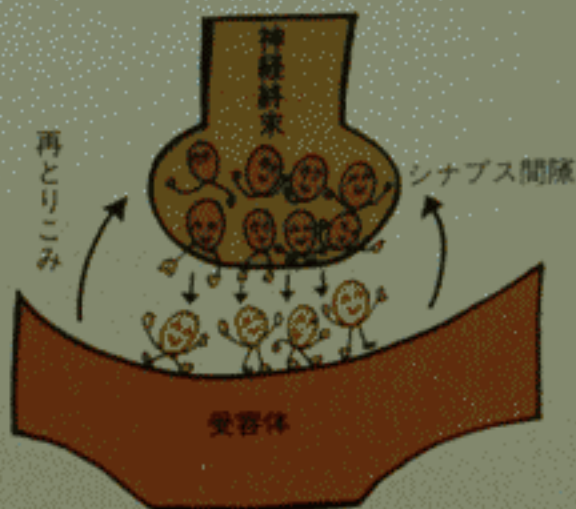
生殖器萎縮

母親が常習者の場合奇形発生のおそれがあります。

覚せい剤の神経細胞作用

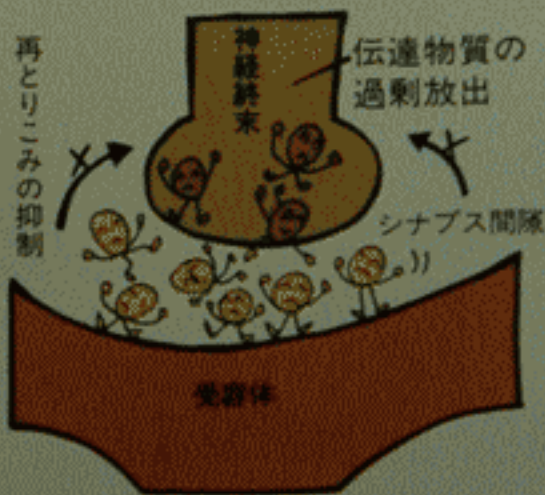
正常なとき

人間の神経系統は、神経細胞のシナプス間隙に伝達物質が放出され、興奮が次の細胞へと順次伝達されて行きます。これがスムーズに行なわれているのが正常な状態です。放出された伝達物質の一部は神経終末に再とり込みされます。



覚せい剤が作用した時 (みせかけの元気)

覚せい剤が作用すると、この伝達物質が過剰に放出されるのと再とり込みが抑制されるために神経作用の伝達が活発になり、一時的に気分が爽快になったように感じます。これがみせかけの元気です。



覚せい剤がきれた時

覚せい剤の効果がきれると、逆にシナプス間隙の伝達物質が極端に少なくなり、興奮の伝達がきわめて少なくなるため、激しい疲労感や憂うつ感におそわれます。これがいわゆる落ち地獄です。



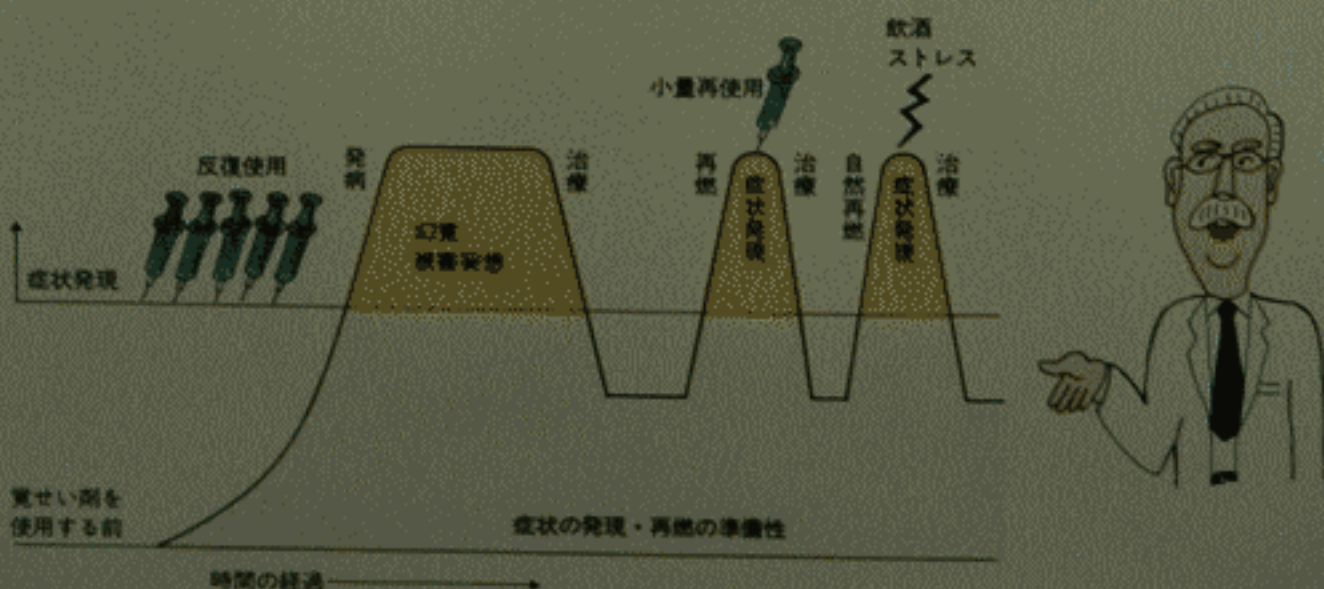
覚せい剤乱用の悪循環

覚せい剤の恐しさは、何度もくり返し使用したくなる性質（依存性）を持っているところにあります。しかも使用回数がふえるたびに、それまでと同じ量では効果がうすれる性質（耐性）があります。その結果コントロールができなくなり、恐しい悪循環となるのです。また覚せい剤には幻覚や妄想を引き起こす作用があります。



おそろしい再燃現象(フラッシュバック)

薬物の乱用の害は、長い間に続きます。乱用をやめ、治療を行って通常の生活にもどったようでも、何かのストレスが原因で急激に精神障害が起こることがあります。これを再燃現象（フラッシュバック）といいます。というのは、覚せい剤の乱用でひとたび精神障害が生じると、治療によって表面上は回復しているようでも、精神障害の再発する下地が残ってしまうからです。



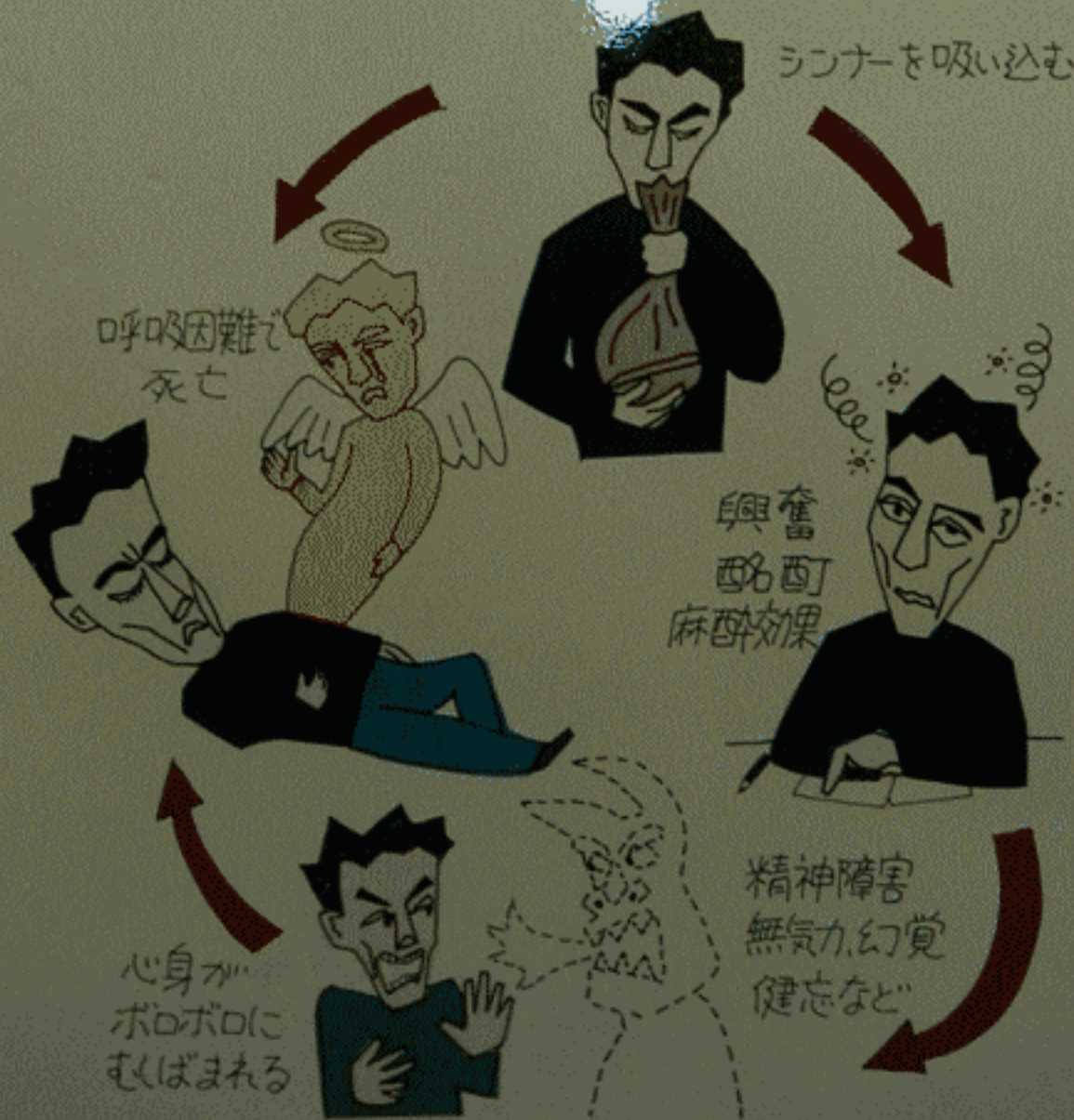
薬物乱用のきっかけ

薬物乱用は一部の特別の人々の間にだけ存在すると思われていますが、薬物乱用のきっかけはいたるところに存在しています。



シンナーくらいの甘い考えが死を招く

シンナーを乱用すると、その主成分であるトルエンなどは気体となって肺を通り、すぐに脳に入り込み、そこで強い効果をあらわします。呼吸中枢に作用し、ついには死に到ってしまうこともあります。



青少年を薬物乱用から守るには

現在シンナー吸引から覚せい剤乱用に移行するケースが急増しており、またシンナー乱用に見られる行動の特徴はその他の薬物乱用にもあてはまるものがあります。

◎子供を孤立させないこと

彼等の多様な価値感を認め常に家族のコミュニケーションをはかるよう心掛ける。

◎過度の放任主義は危険

本人の言動・交友関係には気を配り、特に子供の嘘には厳しい態度で、嘘の背後にある薬物乱用への関心を見逃がさないこと。

◎学校との連絡を親密に

日頃から学校などと連絡を取り合い、非行の兆しがないかを注意する。

◎正しい知識をもつ

保護者も薬物乱用に対し知識を深め子供の疑問にも答えられるように。

◎吸入現場を発見しても無理にとりあげない

無理にとりあげても暴力を誘発するだけ。さめた後、薬物の恐しさなどについて話してやりあくまでも本人に立ち直りの動機を与えてやる。

◎相互の信頼関係を崩さない

お互い話し合いの中で、できる事とできない事ははっきりさせ本人の自立的な立ち直りを期待し見守ってやる。

◎気嫌とりは禁物

本人を成長させるだけでなく子供の潜在的な親への期待を裏切ることにもつながる。

